

令和 8 年度 高知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の更なる充実を目指した授業づくりと教師の指導力向上

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①全国学力・学習状況調査の児童質問調査において、英語学習への意欲の向上が見られる。
(参考:R5:68.7%⇒R6:69.4%)
- ②授業において、ICTを活用して発表ややり取りをする活動に改善が見られる。
(参考R4:84.4%⇒R5:91.4%)

未だ改善が必要な点

- ①全国学力・学習状況調査の児童質問調査において、英語授業の内容理解に課題が見られる。(参考: R6:77.6%)
- ②授業における、児童の英語による言語活動の割合については高い値にあるものの、質の向上を図る必要がある。
(参考: R5:90.9%)

2. 要因分析

①②英語で自分の考えや意見を発信する場である「Discover Kochi Project」や、小・中・高合同授業研究会を実施した。児童が意欲的に取り組む授業づくりや、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業実践を広く発信したことで、各校における取組の推進につながったものと考えられる。

①授業研究会等において、コミュニケーション活動における指導の在り方は発信してきたものの、それを支える知識・技能の育成に向けた指導の具体についての発信が不十分であったため、各学校において、児童が知識・技能の高まりを自覚できるような指導が十分に行われていないことが考えられる。

②訪問指導等において、言語活動は設定しているものの、児童の気付きを促し、より深い学びに導くアプローチが不足している授業が見受けられることから、「言語活動を通した」指導についての理解が十分ではないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②【言語活動のさらなる充実を目指した授業づくりの推進】

1) 小中接続のための英語教育推進事業

県内6地区の中学校区を指定校区とし、小学校英語教育への理解促進と小中接続を意識した授業改善を進める。具体的には、小・中学校の教員による相互の授業参観や指導法・教材研究に関する研修会を実施することで、系統的な学びを意識した授業実践につなげる。

2) 小学校英語授業力向上オンラインセミナー

全小学校から1名以上の教員が参加し、小学校外国語科における授業づくりの基礎・基本への理解を深める。学習指導要領が求める資質・能力を育成するため、教科調査官による講話等を実施し、今求められる指導力の向上と授業改善を図る。

【教師の英語力をブラッシュアップする場の設定】

小・中学校教員の希望者を対象に、教師の英語力と指導力の向上を目指した専門的な研修をオンラインで実施する。

【一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組】

英語力を有する小学校教師を採用するため、教員採用候補者選考審査において、中学校教諭「英語」の普通免許状を有する者や、英検等の資格保有者を加点対象とし、英語力を有する受審者の受審拡大を図る。

また、教員採用説明会等において、加点制度の説明や特別免許状等を活用した積極的な採用についての説明など、英語力を有する小学校教師の人材確保について周知する。

令和 8 年度 高知県 英語教育改善プラン

言語活動の更なる充実を目指した授業づくりと教師の指導力向上

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：48.3%⇒R8：50.0%）

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力(CEFR A1レベル相当以上)に向上が見られる。(R6:47.2%⇒R7:48.3%)
- ②全国学力・学習状況調査の生徒質問調査において、「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」に改善が見られ、「話すこと [やり取り]」に関する授業改善が進んでいることがうかがえる。

(参考:R5:70.7%⇒R6:78.3%)

未だ改善が必要な点

- ①授業における生徒の英語による言語活動の割合は、全国平均と同程度に達している(参考:R5:76.3%)ものの、R5全国学力・学習状況調査の結果から、文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くこと及び話すことに課題が見られる。
- ②教師の英語力(CEFR B2レベル相当以上)は向上傾向にはあるものの、依然として課題が見られる。(R6:35.1%⇒R7:41.8%)

2. 要因分析

- ①英検IBAによるアセスメントの実施により、生徒の英語力を的確に把握し、その結果を踏まえた授業改善が進んだものと思われる。
- ②県主催の事業において、小・中・高等学校における一貫した英語によるコミュニケーション能力の育成を見据えた「話すこと[やり取り]」の領域による授業研究を実施。これにより参加教員が自校の授業改善につなげられたものと考えられる。

- ①生徒が書いたものを吟味・推敲させる指導が十分でないことや、小学校から中学校への英語指導の接続が円滑でなく、特に「音と文字の一致」や「英語の語順への習熟」といった基礎的な指導が不十分であることが考えられる。
- ②教員の自己研鑽の場である研修機会の充実を図るとともに、開催方法の多様化や周知の工夫を進める必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①【言語活動のさらなる充実を目指した授業づくりの推進】

1) 小中接続のための英語教育推進事業

県内 6 地区の中学校区を指定校区とし、小学校英語教育への理解促進と小中接続を意識した授業改善を進める。具体的には、小・中学校教員による相互の授業参観や指導法・教材研究に関する研修会を実施することで、系統的な学びを意識した授業実践につなげる。

2) 中学校教科ネットワーク事業

県内を 4 地域のブロックに分け、推進校を中心に日常的に協働しながら授業改善に取り組むネットワークを構築する。ネットワーク内では、課題改善に向けて、単元づくりをともにを行い、実践内容等を共有することにより、ネットワーク全体の教員の指導力の向上と授業力改善を図る。

3) 英語授業づくりオンラインセミナー

学習指導要領を踏まえた授業づくりについて、受講者のニーズに沿った講義や演習を開催することで、言語活動を通じた資質・能力の育成を目指す授業づくりの理解を深め、授業実践につなげる。

4) AIを活用した生徒の英語力向上推進事業

県内 4 校を指定校とし、AIを活用した生徒のアウトプット機会の確実な確保と、個々の習熟度に応じた即時的かつ個別最適化されたフィードバックにより、生徒の英語力向上を図る。同時に、AIの分析データを利活用した教師の指導改善や、授業内における言語活動の質的向上へとつなげる。

②【教師の英語力をブラッシュアップする場の設定】

小・中学校教員の希望者を対象に、教師の英語力と指導力の向上を目指した専門的な研修をオンラインで実施する。

令和 8 年度 高知県 英語教育改善プラン

言語活動の更なる充実を目指した授業づくりと、生徒の英語使用を支える教師の指導力向上

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 42.5%、B1以上 14.2% ⇒ R8 : A2以上 48%、B1以上 18%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFRB1レベル以上を取得している、または、相当の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加した。
(R6 :12.3%⇒R7:14.2%)
- ②ICTの活用が定着し、授業における言語活動やパフォーマンステスト、振り返りなど、様々な場面で効果的に活用される実践が増えている。
(R6:86.7%⇒R7:93.3%)

- ①パフォーマンステスト実施状況は全国平均(R6:49.7%)を上回っている(R6:91.1%)ものの、生徒の英語力向上に十分結び付いておらず、言語活動の質の向上と評価を生かした指導改善が必要である。
- ②授業における教師の英語使用割合(50%以上)は高いとは言えず、英語による言語活動の量と質の更なる充実が必要である。
(R6:40.5%⇒R7:41.8%)

2. 要因分析

- ①授業内外において英語による言語活動が継続的に実施され、生徒が英語を使用する機会が確保されていることが考えられる。
- ②1人1台端末やクラウドサービスの整備が進み、日常的にICTを活用できる環境が整ったことや、教員自身が、オンライン研修等を通して、ICT活用スキルが向上したことが考えられる。
- ③評価の機会やゴール活動は確保されているものの、生徒の英語力を育む言語活動や、活動・評価に関連付けた指導が十分ではなく、フィードバックや振り返りを含めた目標・指導・評価の一体化による授業改善が必要である。
- ④教師による英語での発話量や活動のモデル提示の回数が十分でないこと、また教師自身が英語で授業を進めることに不安を感じていることなどが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②【目標・指導・評価の一体化が図られた授業づくりの推進】
 - 1) 英語指導力向上事業及び教科研究協議会
年間1回全校悉皆研修を開催。言語活動の更なる充実を目指した授業づくりに向け、講師から助言を得る。
 - 2) 各校への学校訪問の際の助言・指導
年間2回程度の訪問を通じて、各校が協働して作成する「授業実践シート」を基に、授業への指導を行う。(ICTの効果的な活用を含む)
 - 3) 英語教員の英語力向上及び生徒の資格・検定取得を支援するため、オンライン英語学習教材の提供を通して、目標・指導・評価の一体化が図られた授業づくりを推進する。
- ①②【生徒達が身に付けた英語力を発揮する場の設定】
 - 1) こうち未来創造グローバル人材育生事業
探究型海外留学を実施し、生徒が海外研修や国際交流活動等に挑戦する機会を提供する。参加生徒は、事前・事後学習や現地での探究活動を通して、英語を「学ぶ」だけでなく、「使って伝える」経験を積む。
また、エヴァンジェリスト活動等を通じて留学経験を校内外で共有することで、県内の留学の機運につなげる。
 - 2) English Dayの開催
県内高校生がALTや県内在住の留学生と英語で交流する。ディスカッションや協働活動などを通し、異文化理解や即興的な英語のやり取りをする力の向上を図る。

官民協働
海外留学
支援制度→



高知県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.8	44	45.0	46	42.5	48		50	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	11.2	14	12.3	16	14.2	18		20	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	46.3	60	51.2	65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	85.5	87	91.1	90		95		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	88.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	88.9	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	85.5	87	82.1	88	84.8	89		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75	41.6	60	40.5	65	41.8	70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		41	39.1	43	47.2	50	48.3	50		52	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	76.3	79		81		83		85	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	95.4	95		96		98		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	60.4	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	100	85.4	87		90		93		95	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	37.9	41	35.1	44	41.8	47		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	73.1	76		80		83		85	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	85.4	88		91		94		100	
		公表（％）	100	42.2	47		51		55		60	
		達成状況の把握（％）	100	73.5	75		77		79		80	